

世界の外貨準備の通貨構成のデータから見えること

2025 年第一四半期末の世界の外貨準備の通貨構成のデータが IMF からリリースされた。このデータのポイントを挙げる。

第一に、このところドルの世界の外貨準備に占める割合は長期低減傾向にあるが、今期も微減だった。だがこれはドル以外の通貨の対ドル為替レートの上昇が主要因だ。今期の為替レートが前期と変わらなければドルの割合はむしろ微増だった。ただ低減傾向は次の第二四半期に顕著に表れるだろう。トランプの4月初旬の「Liberation Day」での相互関税の発表によるドル離れの影響が予想されるからだ。

二つ目は、アジア・オセアニア通貨の割合が急減し、欧州通貨の割合が大きく増加したことだ。特に円の割合は5%そこそこに低下し、絶対額でも去年は1年を通してほぼ6500億ドル以上を維持していたが、今期は6千億ドルをわずかが切った。オーストラリアドルの割合も大きく減少した。絶対額でも去年はほとんど2500億ドル以上だったが、今期は1680億ドルと急減した。

一方ポンドは2015年以来の5%台に乗せて、円を逆転した。スイスフランもシェアは小さいものの今期は例年の4倍に増加した。外貨準備のデータは急に大きく変化することはあまりなく、今期は異常に見える。その点では次の期も見て変化を確認する必要がある。地殻変動とも言えるこの傾向が本物とすると変化の要因を詳しく探る必要がある。

例えば円の場合は安全通貨としての地位が揺らいでいるのかどうか。石破内閣の登場に合わせて変化が起きているので、政策の要因もあるのか、などだ。

三つ目はその他通貨の割合の増加傾向が顕著であることだ。その他通貨とはここに取り上げられた主要通貨以外の通貨で具体的には、香港ドル、シンガポールドル、スウェーデンクローナ、韓国ウォン、ノルウェークローネなどだ。これはドル一極体制から中国やグローバルサウス諸国の志向する多極通貨体制への移行傾向を示すものだ。

次に各通貨別の割合などを記す。

1. ドルの割合は 57.73%だった。前期より僅かに減少したが、これは主に為替レート要因による。
2. ユーロの割合は 20.06%、微増だった。ユーロはこのところ 20%前後で安定的に推移してきたがこの傾向に変化はなかった。
3. 人民元の割合は 2.11%、最近の低下傾向は今期も続いている。人民元が将来世界の基軸通貨の一角を担う気配は全く感じられない。
4. 円の割合は 5.15%だった。急速に減少した。円は長らく低金利通貨であったが、安全通貨として位置づけられ幅広く底堅い円需要が続いたが、こうした基盤が損なわれてきたのか。
5. ポンドの割合は 5.19%に増加した。久しぶりの 5%台乗せで円の割合を上回り、世界でドル、ユーロに次ぐ三番目の通貨にのし上がった。円は四番目に低下した。
6. オーストラリアドル、カナダドル、スイスフランの割合はそれぞれ 1.44%、2.63%、0.76%だった。A\$ は急減したが、C\$の割合はあまり変わらず安定傾向を維持した。
7. その他通貨の割合は 4.92%で増加傾向が続いている。これまでで最も多い。これまでの増加ペースを見ると、円やポンドを上回るのもそう遠くはないと思われる。

以上です。